様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ９ 月 １８ 日現在

機関番号：２６４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２４５８

研究課題名（和文）周縁テクスト（注釈・翻訳）の自立性をめぐる歴史的・理論的研究

研究課題名（英文）A historical and theoretical study of the autonomy of the marginal texts (footnote and translation)

研究代表者
高西　成介（Takanishi, Seisuke）

高知県立大学・文化学部・教授

研究者番号：５０３１６１４７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、これまでテクストの周縁としてみなされてきた「注釈」「翻訳」を、そのものに価値を見出すことが可能な自立したテクストとみなし、再評価することを目指したものである。中国文学と米文学の研究者が互いに意見を交換し合いながら、それぞれのフィールドで、本文に付随するものとしてではなく、「注釈」「翻訳」そのものに焦点を当て分析・検討を加えた点に本研究の大きな特色がある。その結果、注釈や翻訳それ自体も解釈したり分析したりすることが可能なテクストであり、またそれ自体が独立して変容し受容されていく可能性を持つテクストと見なしうることの一端を明らかにできたと考えている。

研究成果の概要（英文）：While critics have long granted footnote and translation only a peripheral import in literary studies, this research project aimed to reevaluate their textual legitimacy and efficiency. The research members, specializing in such different fields of study as Chinese literature and American literature, exchanged ideas from each disciplinary perspective and analyzed various practices of footnote and translation as independent texts, not as subordinate adjuncts to the original texts. In the course of the project, footnote and translation were found to merit due examination and actually provoke continual (re)interpretations and (re)contextualizations just as other literary texts do.

研究分野：中国古典文学

キーワード：注釈　翻訳　中国文学　アメリカ文学　歴史的研究

１．研究開始当初の背景
これまで「注釈」「翻訳」は、原テクストをよりよく理解するための道具としてのみ存在価値を認められてきた。しかし、実際には「注釈」「翻訳」がそれ自体自立したテクストとして受容されてきた事例も認められる。本研究は、そうした「注釈」「翻訳」が本来持つテクスト性に対して、「注釈」「翻訳」に対する認識が大きく異なる中国文学研究者と英米文学研究者の共同研究を通して、歴史的・理論的観点から文学研究の新しい視座を提示することを目指したいと考えた。

２．研究の目的
本研究は、これまでテクストの周縁としてみなされてきた「注釈」「翻訳」を、そのものに価値を見出すことが可能な自立したテクストとみなし、再評価することを目指すものである。手順としては、二つの観点から見直すこととなる。まず、「注釈」「翻訳」それ自体が、実は新しいテクストとして受容されてきたことを、歴史的な観点から検討する。続いて、こうした研究を踏まえながら、「注釈」「翻訳」行為の再定義を行う。本研究は、中国文学、英米文学という、異なる背景を持つ研究者が協働で行う取り組みである。中国文学研究は、「注釈」「翻訳」研究に長い蓄積を持つ。また、英米文学研究では、近年それらへの再評価が進んでいる。こうした両者が共同研究を行うことで、各国文学の枠を取り払い、文学研究全般にとって「注釈」「翻訳」行為とは何であるのか理論化を試みる。その上で、最終的には文学研究に新たな方法の可能性を提起することを目指した。また、こうした研究成果を積極的に社会に還元することも、本研究の大きな目的の一つとした。

３．研究の方法
本研究の柱として、次の三つを立てた。
（１）中国文学・英米文学における、優れた「注釈」の歴史的分析
（２）中国文学・英米文学における、優れた「翻訳」の歴史的分析
（３）文学研究における「注釈」「翻訳」行為の再定義

その上で、研究代表者は中国文学研究の立場から、研究分担者は英米文学研究の立場から、上記の三つの柱に対して個別のアプローチを行い、研究を進めることにした。それぞれの研究は個別に行われるが、本研究がめざすのはそれぞれが独立した研究を達成することではなく、個別の研究成果を有機的に結合させるところにある。そのために、定期的に研究会を実施するだけではなく、さらに日常的に情報交換と討議を行うことによって、それぞれの研究成果を有機的に結合させることを目指した。

４．研究成果
これまでテクストの周縁としてみなされてきた「注釈」「翻訳」を、そのものに価値を見出すことが可能な自立したテクストとみなし、再評価することを目指した本研究は、とりわけ「注釈」と「翻訳」の歴史的分析に大きな成果を挙げることができた。つまり、「注釈」及び「翻訳」そのものもまた、解釈したり分析したりすることが可能となる自立したテクストであることが明らかになってきたのである。しかし、我々が当初目標としていた文学研究における「注釈」「翻訳」行為の再定義を行うためには、もう一歩進んだ視点が必要となることも、またわかってきた。それこそが、「創造的営為＝創作」として注釈や翻訳を再構築するという視点である。このことについては、今後の研究課題とし、引く続き共同研究を行っていく予定である。

なお、具体的な研究成果は以下の通りである。
（１）中国文学・英米文学における、優れた「注釈」の歴史的分析
①中国の四大注釈の一つとして知られる『世説新語』劉孝標注は、前代の『三國志』に注を附けた裴松之の流れを組み、広く異聞を集め、出来事を多面的に捉えようとするところにその特色がある。そして、『世説新語』劉孝標注には『三国志』裴松之注と同様に、志怪的怪異記事から引用されるものがいくつも存在する。こうした劉孝標注引志怪記事を分析することによって、裴松之と同様、劉孝標もまた志怪記事、とりわけ「鬼」に対して、深い関心と理解を持っており、歴史の重要な部分であると考えていたことを明らかにした。また、劉孝標の注釈は、単に博覧を示すためではなく、引用文の選択などを通して自己主張を行っており、さらに、『世説新語』本文とは一定の距離を取りながら、単に本文の理解を深めるのではなく、注釈によって新たな視点を読み手に与える場合も存在する。このように、劉孝標の注は、劉孝標注として一つの世界を作っていることを指摘した。
②『太平広記』宝部に実際に注釈を加えた。
③明治期の中国文言小説の翻訳書『妖怪府』の分析を進め、その際には『妖怪府』に付された注釈に注目し分析を行い、その独自性を明らかにした。
④アメリカ共和制時代の歴史記述分野における注釈の実践について、理論的な考察を行った。19 世紀初頭の歴史家 Jared Sparks の史料編集や注釈作業をめぐる論争を題材に、当時の実証主義的な歴史記述が抱えていた史的客観性と文学的想像力の葛藤の問題を論じた。
⑤歴史記述の分野において、注釈の主役は史料である。注釈という場で繰り広げられる実証性と物語性の衝突についての考察から派生し、18 世紀末アメリカの歴史家 Jeremy

Belknap による史料の管理や整頓の仕方に関わる問題を考察した。
⑥Washington Irving によって創作された Diedrich Knickerbocker というキャラクターが様々に注釈され、いわば二次創作されていく過程に、注釈とパロディと創造性の相乗作用を指摘し、それを 19 世紀初頭のアメリカ文学市場の特徴の一つとして論じた。

（２）中国文学・英米文学における、優れた「翻訳」の歴史的分析
①明治時代の中国文言小説の受容について、笹川種郎、島村抱月、森槐南らの言説を用いて検討を加えた。
②『妖怪府』に附された酔多道士の序文の分析を行い、明治の「妖怪」認識の一端を明らかにした。
③唐代伝奇「定婚店」について、南宋刊本と『太平広記』の比較検討を行った。あわせて、このような物語が創られた背景を考えるとともに、「定婚店」の最初の日本語訳と考えられる松井等の翻訳の検討を行った。
④Maxine Hong Kingston の *The Woman Warrior* を取り上げ、翻訳者の創造的役割、およびその抑圧について指摘した。母（中国生まれ）の物語を娘（アメリカ生まれ）が語り直す試みに「翻訳」の構造を見出し、翻訳者としての娘がいかに自分の声を獲得するかというストーリーとして論じた。
⑤英米文学作品の翻訳者として活躍する人々のエッセイや翻訳論を取り上げ、本来裏方であるはずの翻訳者が自らの声を発することの意義、および彼らの意識にある翻訳の「半創作性」について考察した。

また、研究成果を社会に積極的に還元することを狙って、2016 年 11 月には高知県立大学において公開シンポジウム「翻訳文学の楽しみ」を開催した。シンポジウムでは、井上浩一東北大学講師による講演と、研究代表者、研究分担者に、林雅清京都文教大学准教授、井上浩一氏、書店員である千頭紀夫氏を加えたメンバーによるパネルディスカッションを実施した。このシンポジウムには多数の一般市民の参加があり、好評のうちに終えることができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5　件）
①<u>高西成介</u>「明治妖怪論事始ー 酔多道士『妖怪府』 叙をめぐって」『高知県立大学文化論叢』6 巻、2018 年、68-59
②<u>高西成介</u>　『太平広記』訳注（稿）ー巻四百「宝」部金上（下）　『高知県立大学紀要文化学部篇』66 巻、2017 年、18-32
③<u>山口善成</u>「荒野とバラ ― フランシス・パークマンの『森の歴史』における園芸学の作用」『アメリカ文学評論』25 巻、2017 年、183-194
④ <u>山口善成</u>　“Collect, Preserve and Communicate”: Jeremy Belknap’s Republic of Letters and the Problems of Early American History Writing,” *The International Journal of the Book*, volume 15, issue 1、2016 年、17-28
⑤<u>高西成介</u>　「富」「都市」をめぐる話と『続玄怪録』　『富永一登先生退休記念論集　中国古典テクストとの対話』研文出版　2015 年 199-235

〔学会発表〕（計　17　件）
①<u>高西成介</u>「『世説新語』 劉孝標注のたくらみ」、第６回注釈・翻訳研究会、2018 年 2 月
②<u>山口善成</u>「“History in Transition” をめぐって その現状と課題」、第６回注釈・翻訳研究会、2018 年 2 月
③<u>高西成介</u>「再考『妖怪』語をめぐって」、第８回「海域交流と中国古典小説」研究会、2017 年 12 月、東北大学
④<u>高西成介</u>「中国古典小説の注釈と翻訳をめぐって」、「海域交流と中国古典小説」研究会、2015 年 9 月、京都文教大学
⑤<u>高西成介</u>「志怪小説と『世説新語』劉孝標注をめぐって」、中国中世文学会平成 29 年度研究大会、2017 年 10 月、広島大学
⑥<u>山口善成</u>「ニッカボッカーの系譜―19 世紀アメリカにおけるセレブリティ文化と二次創作的自己形成」、日本英文学会全国大会、2017 年 5 月、静岡大学
⑦<u>山口善成</u>「閉じ込められた『私』― Maxine Hong Kingston, *The Woman Warrior* の 語りの不安定さ」、2016 年度アメリカ文学古典研究会「語りと物語の逍遥―アメリカ古典想像の旅」、2016 年 12 月、中京大学
⑧<u>山口善成</u>「翻訳者たちは語る」、科学研究費助成シンポジウム「翻訳文学の楽しみ」、2016 年 11 月、高知県立大学永国寺キャンパス
⑨<u>高西成介</u>「唐代伝奇小説「定婚店」をめぐる 二、三の問題について」中国中世文学会平成二八年度研究大会、2016 年 10 月、広島大学東千田キャンパス
⑩<u>山口善成</u>「伝記作家の声：Jared Sparks の歴史記述における史的客観性と脚注的想像力」、中・四国アメリカ文学会 2015 年大会、2015 年 6 月、香川大学
⑪<u>山口善成</u>「笑う歴史家―ワシントン・アーヴィングによるアメリカ文学はじまりの 空騒ぎ」、中・ 四国アメリカ文学会年次大会、2016 年 6 月、広島経済大学
⑫<u>山口善成</u>「ビーバーとミツバチとバイオリン弾き ― ジェレミー・ベルナップ『フォレスターズ』におけるアメリカの森の歴史」、イギリス・ガーデン研究会、2016 年 4 月、神戸大学

⑬山口善成　“Geological Deep Time in Francis Parkman's History Writing Interdisciplinary Nineteenth Century Studies Conference,” Interdisciplinary Nineteenth-Century Studies Conference, 2016 年 3 月、 Asheville, North Carolina, USA
⑭高西成介「文学、注釈、翻訳：周縁テクストの意義」、注釈・翻訳研究会、2015 年 11 月、高知県立大学
⑮山口善成「燃やされた手紙：文書の保存をめぐる考察」、注釈・翻訳研究会、2015 年 11 月、高知県立大学
⑯山口善成「荒野とバラ：Francis Parkman の「森の歴史」における園芸学の作用」、日本アメリカ文学会全国大会、2015 年 10 月、京都大学
⑰山口善成「『何か』の物語：James Baldwin, *Another Country* の捉えどころのなさ」日本アメリカ文学会東北支部例会、2015 年 9 月、東北大学

〔図書〕（計　1　件）
越川芳明・杉浦悦子・鷲津浩子編『〈法〉と〈生〉から見るアメリカ文学』、悠書館、2017 年、356 頁
共著者名（掲載順）：鷲津浩子、山口善成、幡山秀明、鵜殿えりか、大畠一芳、岩元巌、三添篤郎、新井哲男、越川芳明、植野達郎、千葉洋平、坂口佳世子、大工原ちなみ、齋藤博次、長岡真吾、余田真也、平沼公子、永瀬美智子、新井磯乃、杉浦悦子
出版社：悠書館
＊山口担当箇所は「笑う歴史家―ワシントン・アーヴィングによるアメリカ文学はじまりの空騒ぎ」（pp．13-28）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
高西成介（TAKANISHI, Seisuke）
高知県立大学・文化学部・教授
研究者番号：50316147

(2)研究分担者
山口善成（YAMAGUCHI，Yoshinari）
高知県立大学・文化学部・准教授
研究者番号：60364139